

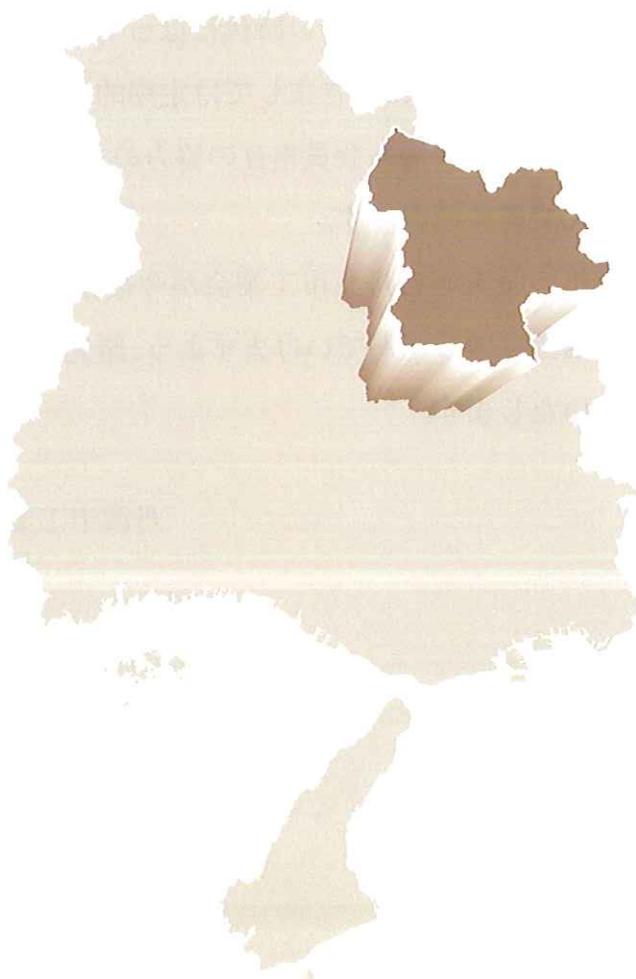
丹波市工業会

40周年記念誌



丹波市工業会

40周年記念誌



丹波市工業会 設立40周年を迎えて

丹波市工業会会員の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。
当工業会は氷上郡工業会として1972年(昭和47年)8月8日に設立され、2004年(平成16年)に氷上郡6町が合併し丹波市となったことにより、丹波市工業会と名称を改め活動をしてまいりました。

本年、設立より40周年を迎えるにあたり、その歩みを冊子にして記念誌として発刊することになりました。

丹波市工業会は、設立以来地域産業の発展と会員相互の連携と親睦を目的に、県・市の支援のもと、商工会等の各種団体とも相互協力を行いながら、地域に密着した活動を行ってまいりました。

現在の日本の景気は、昨年発生した未曾有の東日本大震災の影響がまだまだ続く中、円高傾向が急速に進み工業会が発足した1970年代では200円/ドル台だったものが70円/ドル台後半で推移しています。

このことは、この40年間で日本の力が格段に向上したとも言えますが、産業界にとりましては、外部環境に左右される大変厳しい時代になっています。

このような状況の中、丹波市工業会におきましては定期的を開催しています「改善活動発表」「経済講演会」などを通じ、今後も会員相互の協力のもと地域の発展に少しでも寄与できるように取り組んで行く所存です。

後になりましたが、40年の歴史ある丹波市工業会が今後益々発展し、また会員各社が地域に於いて活力ある活動に取り組んでいけますよう、諸先輩の皆様のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

丹波市工業会会長
足立俊行

目次

歴代会長・副会長	1
丹波市工業会40年のあゆみ	3
丹波市工業会40周年記念式典&祝賀会	8
会員名簿	17

歴代会長／副会長

会
長

初代

荻野 寂

(株式会社 特殊合金工業所)

1972.8 ▶ 1974.3
昭和47年8月 ▶ 昭和49年3月



2代

越智 秋夫

(関西電力株式会社)

1974.4 ▶ 1976.3
昭和49年4月 ▶ 昭和51年3月



3代

矢本 通明

(柏原加工紙株式会社)

1976.4 ▶ 1980.3
昭和51年4月 ▶ 昭和55年3月



4代

上月 安重郎

(上月合名会社)

1980.4 ▶ 1986.8
昭和55年4月 ▶ 昭和61年8月



5代

柳瀬 豊造

(株式会社 氷上製作所)

1986.9 ▶ 1991.3
昭和61年9月 ▶ 平成3年3月



6代

志村 勲

(東洋電機株式会社)

1991.4 ▶ 1993.3
平成3年4月 ▶ 平成5年3月



7代

矢持 勝司

(株式会社 大日製作所)

1993.4 ▶ 1994.5
平成5年4月 ▶ 平成6年5月



副
会
長

林 秀雄
(関西卸株式会社)

林 治利
(関西電力株式会社)

林 秀雄
(関西卸株式会社)

矢本 通明
(柏原加工紙株式会社)

上月 安重郎
(上月合名会社)

林 秀雄
(関西卸株式会社)

加藤 靖
(関西電力株式会社)

小野木 吉澄
(柏原化成株式会社)

石川 勝三
(関西電力株式会社)

山根 勇
(関西電力株式会社)

田野 雅美
(関西電力株式会社)

志村 勲
(東洋電機株式会社)

田野 雅美
(関西電力株式会社)

福井 行男
(関西電力株式会社)

矢持 勝司
(株式会社 大日製作所)

福井 行男
(関西電力株式会社)

大谷 清二
(東洋電機株式会社)

歴代会長／副会長

会
長

8 代

福井行男

(関西電力株式会社)

1994.6 ▶ 1996.3
平成6年6月 ▶ 平成8年3月



9 代

堀正昭

(関西電力株式会社)

1996.4 ▶ 1998.3
平成8年4月 ▶ 平成10年3月



10 代

田辺俊雄

(東洋電機株式会社)

1998.4 ▶ 2000.3
平成10年4月 ▶ 平成12年3月



11 代

渡辺年美

(井上電機株式会社)

2000.4 ▶ 2002.5
平成12年4月 ▶ 平成14年5月



12 代

山本慎一郎

(エムシー工業株式会社)

2002.6 ▶ 2008.5
平成14年6月 ▶ 平成20年5月



13 代

足立俊行

(株式会社クレハ樹脂加工事業所)

2008.6 ▶ 現在
平成20年6月 ▶ 現在



副
会
長

大谷清二

(東洋電機株式会社)

辻隆

(理研電線株式会社)

大谷清二

(東洋電機株式会社)

矢持泰秀

(株式会社 大日製作所)

矢持泰秀

(株式会社 大日製作所)

井上義男

(井上電機株式会社)

大木正

(兵庫パルプ工業株式会社)

山本慎一郎

(エムシー工業株式会社)

佐藤辰夫

(東洋電機株式会社)

足立俊行

(株式会社クレハ樹脂加工事業所)

西浦章二郎

(東洋電機株式会社)

細見悦男

(明治ナショナル工業株式会社)

細見悦男

(明治ナショナル工業株式会社)

足立克好

(株式会社 氷上製作所)

木口淳平

(株式会社 共立合金製作所)

1972 S47 ● 氷上郡工業会設立
労働安全衛生法の説明会



1974年3月 企業幹部研修会

S47 ● 氷上郡広域行政協議会発足

1973 S48 ● 企業幹部研修会
トップQC活動講演会

S48 ● 「柏原荘」県立柏原病院と改称

1974 S49 ● 第一回 工場対抗
野球大会開催
QC教室一泊講習会実施



1975年5月 第4回定期総会

S49 ● 氷上郡広域行政事務組合発足
県柏原総合庁舎竣工

1975 S50 ● プレス安全大会優良事業所表彰
美浜原子力発電所・舞鶴海軍記念館見学



1976年5月 第5回定期総会

S50 ● 丹波県民局開局

1976 S51 ● 県民局共催の同和学習会開催
プレス災害対策説明会

S51 ● 柏原高校青垣分校独立し
県立氷上西高等学校となる



1977年5月 第6回定期総会

1977 S52 ● 安全管理研修会
中小企業融資制度説明会



1979年11月
労働特別研修会

S52 ● 遠阪トンネル
開通

1978 S53 ● 柏原税務署との懇談会
丹波少年自然の家 一泊研修会

S53 ● 県立柏原高校本館
改築工事竣工

丹波少年自然の家
竣工開所

1979 S54 ● 労働特別研修会と映画による指導
産業医選任規定説明会



1979年1月 新年会と友井喜代治氏
(下滝産業(株)社長) 叙勲受章祝賀会

S54 ● 広域消防調査部会を設置

丹波市(氷上郡)の出来事

丹波市工業会の出来事

- 1980 S55 ● 優良従業員表彰
県との共催で丹波地域
労働問題懇話会
- 1981 S56 ● 社会明るくする会
氷上地区実施委員会参加
十周年記念映画
「躍進する氷上郡の工業」
制作・発表
- 1982 S57 ● 小山事務局長 のじぎく賞受賞
大阪ダイハツ工業㈱
QC 見学会
- 1983 S58 ● パソコン研修会
第一回ゴルフコンペ開催
- 1984 S59 ● 第一回QC発表会開催
氷上青年会議所幹部と
懇談会
- 1985 S60 ● 初代会長 荻野寂氏
科学技術庁長官賞受賞
高浜原子力発電所見学会
- 1986 S61 ● 氷上郡工業会会報百号発刊
大阪氷上郡友会との懇親会開催
- 1987 S62 ● 兵庫県行政書士会との
共催で交通対策研修会



1980年5月 第9回定期総会と
優良幹部表彰



1981年9月 氷上郡工業会10周年記念



1981年9月
「躍進する氷上郡の工業」上映会



1982年4月 大阪ダイハツ工業と
アサヒビール見学



1984年3月 第1回QC発表会



1985年9月
第10回ゴルフコンペ大会



1983年10月
パソコン研修会



福知山線
電化開業

1985年11月
高浜原子力発電所見学会

近畿自動車道福知山まで開通

広域消防本部設置

近畿自動車道舞鶴線起工

老人入浴サービス
事業発足

グリーンセンター(郡民憩いの広場)竣工

氷上郡行政連絡協議会発足
柏原病院総合病院となる

県立氷上農高
校名を氷上高校と改称

氷上工業団地にて
県防災総合訓練実施

1988
S63 ● 西脇労働基準局との共催で
労基法研修
喜撰山水力発電所と
石山寺見学



1988年7月 2世社長座談会

S63 ● 丹波年輪の里開園
葉草葉樹公園開園

1989
H1 ● 矢持勝司氏
科学技術庁長官賞受賞
工業会 O B会開催

H1 ● NHK大河ドラマ「春日局」放送
郡教育委員会発足20周年

1990
H2 ● 労働時間改善援助事業団体の
指定を受け時短研修会
大阪花博見学



1988年11月 喜撰山水力発電所と石山寺見学会

H2 ● 丹波の森協会
財団法人の許可
郡内農協合併し
丹波ひかみ農協発足

1991
H3 ● 小山事務局長 兵庫労働基準局より表彰
20周年記念映画制作



1989年9月 懐かしい工業会 O B会

H3 ● 郡教育委員会研修棟完成

1992
H4 ● 安全衛生管理
研修会実施
外国人労働者
雇用についての研修会



1990年1月 新年会

H4 ● 「氷上郡町村会誌」発刊

1993
H5 ● 神戸製作所・
舞鶴記念館見学
郡内工業系高校設立陳情



1991年10月 氷上郡工業会20周年記念式典

H5 ● 青垣町の丹波布が
県伝統工芸品に指定
市島町で県下初の
奈良時代木棺墓出土

1994
H6 ● 安全衛生対策発表会開催
P L法研修会実施

H6 ● 植野記念美術館開館

1995
H7 ● 安全と衛生の研修会開催
経済講演会開催



1991年5月 第20回定期総会



1995年3月 経営者セミナー

H7 ● 阪神淡路大震災

1996
H8 ● 人権セミナー開催
安全山に「全国産業安全祈願碑」の建立



1996年12月 安全祈願碑除幕式

H8 1996 ● 大規模店「コモール丹波の森」「ゆめタウン」オープン
丹波の森公苑 開園

1997
H9 ● 兵庫パルプ工業(株)工場見学会

H9 1997 ● 奥野マトンネル 開通
氷上町立図書館 開館

1998
H10 ● 夏季納涼講演会開催
経済社会の変革と女性労働者についての講演会

H10 1998 ● 台風7号で氷上町三方の大歳神社が全壊

1999
H11 ● コンピューター2000年問題懇談会実施
労働時間短縮改善会議の開催



1998年 パートナーシップ啓発セミナー

H11 1999 ● 柏原町など4町広域斎場開業
集中豪雨で郡南部で大水害

2000
H12 ● 小山事務局長勇退
会長会社に事務局移転
電子商取引についての講演会開催

H12 2000 ● 薬草薬樹公園リフレッシュ館完成
(株)まちづくり柏原 発足

2001
H13 ● 氷上郡工業会設立30周年を迎える
兵庫工業会へ団体加入



2002年2月 QC発表会

H13 2001 ● 氷上郡六町合併協議会 発足
鐘ヶ坂トンネル着工

2002
H14 ● 県民局と共催で講演会
人事・労務諸制度実施状況に関するアンケート調査

H14 2002 ● 山南町で薬草加工施設完成

2003
H15 ● 化学物質の排出量について納涼講演会
安全山で安全祈願祭



2002年3月 氷上郡工業会創立30周年記念祝賀会

H15 2003 ● 春日観光農園の閉鎖が決定
市島町議会議員選挙が無投票

2004
H16 ● 6町合併で丹波市工業会に
名称変更
会員事業所2社が
優良事業場賞を受賞

2005
H17 ● 「高齢者・中途退職者の
人材活用戦略」講演会開催
普通救命講習を開催

2006
H18 ● 「丹波市産業交流市2006」に出店
丹波市長迎え納涼講演会開催

2007
H19 ● 丹波地域企業活性化セミナー開催
「若手人材の確保と育成」
テーマに講演会開催

2008
H20 ● 地球温暖化防止テーマに
ものづくり講演会開催
「社員をのばす教育研修法」
テーマにセミナー開催

2009
H21 ● 「砂糖と健康」と題した
ひとつづくり講演会開催
環境問題講演会開催

2010
H22 ● 「暮らしと雇用」について
講演会開催
「ワーク・ライフ・バランスで
一挙両得」講演会開催

2011
H23 ● 地域活性懇談会開催
心の健康テーマに講演会開催



2006年11月
丹波県民局との
共催講演会

及中工業会改善活動発表大会



2007年3月 改善活動発表大会



2007年8月 丹波地域企業活性化セミナー



2007年11月 ソフトボール大会



2010年3月
改善活動発表大会



2007年8月
「若手人材の確保と
育成」講演会



2012年7月 安全祈願祭

氷上郡6町合併「丹波市」誕生
市長に辻重五郎氏が当選

JR福知山線脱線事故
新鐘ヶ坂トンネル 開通

柏原・柏原赤十字病院で
医師不足による休診相次ぐ

篠山層群で恐竜化石
発見を発表
丹波市商工会 発足

丹波市医療再生
ネットワーク 設立

丹波市長選で
辻重五郎市長が再選

新型インフルエンザ猛威

修成建設専門学校青垣研修センター閉鎖

JA丹波ひかみが
合併20周年

東日本大震災発生

H16
2004

H17
2005

H18
2006

H19
2007

H20
2008

H21
2009

H22
2010

H23
2011



丹波市工業会40周年記念式典&祝賀会

平成24年9月12日(水) 於:ポップアップホール(丹波市氷上町本郷)

記念式典

- ◎ 開会
- ◎ 開会のあいさつ
- ◎ 来賓紹介

丹波市産業経済部長	近藤 俊幸 氏
丹波県民局長	梅谷 順子 氏
丹波市商工会長	大地 但 氏
丹波市商工会事務局長	藤本 泰男 氏
3代工業会長	矢本 通明 氏
8代工業会長	福井 行男 氏
11代工業会長	渡辺 年美 氏
12代工業会長	山本慎一郎 氏



- ◎ 来賓あいさつ
- ◎ 記念講演

演題 「10年連続『日本一の知恵工場』」
講師 株式会社タニサケ 取締役会長 松岡 浩 氏

- ◎ 閉会のあいさつ

祝賀会

- ◎ 開宴
- ◎ 乾杯
- ◎ アトラクション
日本紙器株式会社 ジェイペーパーズクラブバンド
- ◎ イベント
丹波市工業会のあゆみ(スライド上映)
- ◎ 万歳三唱
- ◎ 閉宴



◎ 開会のあいさつ



丹波市工業会 会長 足立 俊行

来賓の皆様や工業会の歴代会長にもお越しいただき、40周年式典を開催する運びになりました。のちほど、30年ほど前に氷上郡工業会として制作しました映画をご覧くださいますが、その当時、氷上郡工業会には70社を超える参加企業がありました。現在はおよそ半分の34社になっております。これは地域の雇用にも影響を与えることだと思っておりますが、私ども丹波市工業会は、少しでも地域の発展に寄与できるよう活動しており、今後も取り組んでいく所存です。



◀ 来賓として出席された歴代会長。右から矢本通明氏(3代)、福井行男氏(8代)、渡辺年美氏(11代)、山本慎一郎氏(12代)



▶ 来賓として出席いただいた左から近藤俊幸氏、梅谷順子氏、大地 但氏、藤本泰男氏

◎ 来賓祝辞



丹波市産業経済部 部長 近藤 俊幸 (辻重五郎 丹波市長祝辞を代読)

丹波市工業会の皆様には、工業界・産業界の発展にご尽力をたまわっていることに心よりお礼申し上げます。我が国の経済は穏やかに回復しつつあると言われてますが、先行きについては依然として不透明な状況です。そのような中でご尽力されていることに敬意を表します。

丹波市では、安心な暮らしを市政の柱としており、工業界についても各種の優遇措置を採っております。また、合併により丹波市が誕生してから8年。ようやく市が一体化してきたと感じられる中、都市計画マスタープランの策定を進めており、工業会会員の事業所の皆様が活動しやすい環境をつくっていきたいと考えております。産業界を取り巻く状況は厳しいですが、工業会の果たされる役割は大きく、期待を寄せております。

◎ 来賓祝辞



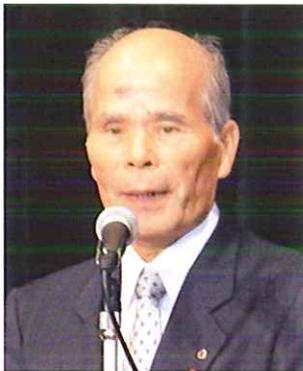
丹波県民局長

梅谷 順子

40周年、誠におめでとうございます。工業会が設立されました1972年はミュンヘンオリンピックが開催された年で、そのころは列島改造景気にわいておりました。20年後には東西ドイツの統一、ソビエト連邦の崩壊と世界が大きく動き、日本ではバブルが崩壊しました。1995年の阪神淡路大震災、昨年の東日本大震災と、経済にとって厳しい状況が続いています。

私は今年春、丹波県民局に来させていただきました。丹波は、いろいろな地域資源に恵まれ、災害も比較的少なく、大きな可能性を持った地域と思っています。地元の企業も訪問させていただきましたが、いい製品を作ろうと、社員の皆様が一丸となられ、熱意を感じる企業に出会わせていただきました。

丹波県民局では、元気な丹波をつくろうとしています。皆様には引き続きお力添えをいただきますようお願いいたします。



丹波市工業会

8代会長 福井 行男

私が、工業会の副会長、会長をさせていただいた平成3年から7年の頃の思い出を語り、あいさつとさせていただきます。

当時は、バブルが崩壊し、戦後最大の不況と言われていました。ドルが100円を突破するなど、厳しい時代でした。今後の景気回復は難しいとの見通しから、顧客が要求している品質、価格を設定し、製品開発に取り組むべきとのことで、工業会として、各企業さんのノウハウを学ぶことになりました。他社に学び、会員相互に勉強することが大切であろうと、経営者層に出席いただき、会員企業の見学をはじめ、講演会、勉強会を行いました。PL法や外国人雇用などの問題についても学びました。

また、社会的な活動としては氷上郡の高校に工業系の学級を新設してほしいと、氷上郡6町の議会に要望したほか、当時の貝原県知事にもお願いしました。

内外の問題に取り組み、それから20年。景気が良くなることは一度もなく、当時よりも難しい状況が続いておりますが、工業会が、会員企業のみなさまに役立つよう、今後とも活動されることを祈念しております。

◎ 講演要旨

演 題 「10年連続『日本一の知恵工場』」

講 師 株式会社タニサケ取締役会長

松岡 浩 氏

プロフィール

松岡 浩(まつおか・ひろし)氏

1944年(昭和19年)、岐阜県池田町生まれ。岐阜県立大垣商業高校卒。イビデン(株)勤務からスーパーマーケット経営を経て、(株)タニサケを設立。「ゴキブリキャップ」を爆発的にヒットさせる。社員35名(パート5名含む)ながら年間の売上高8億4000万円、経常利益が2億1000万円という高収益優良企業。

「経営者は一番早く出社し、一番汚い仕事をする」が、よい会社への道との経営理念を持ち、トイレ掃除を中心とした1泊2日の体験研修「タニサケ塾」(無料)を主宰し、全国から中小企業経営者を受け入れ、独自のノウハウで生み出した「日本一の知恵工場」経営の秘訣を伝授する。

著書に『ゴキブリだんごの秘密』(PHP研究所)、『喜びの生き方塾』(モラロジー研究所)など。



丹波市工業会40周年の節目に講演をさせていただくこと、光栄に存じます。中国にこのようなことわざがあります。「10年、偉大なり。20年、^{おそ}畏るべし。30年にして歴史なる」。丹波市工業会は設立から40年ですから、歴史ができたわけです。このことわざには、もう一つ、上がありまして、「50年にして神の如し」といいます。どうかあと10年続けていただいで、「神の如し」と言われる工業会をつくられるよう祈念いたします。

私の人生の師であり、経営の師でもあります鍵山秀三郎さんは、「お客様は議論したり、知恵比べをする相手ではない。お客様と議論をして、勝った者は一人もいない」と言われました。お客様を妻に言い換えると、よく分かります。妻と議論をして、勝った者は一人もいません(笑)。ですから、お客様と接するときは、常に妻と思って丁寧に接すること、それが成功の秘訣です。

私どもの会社では平成3年から改善活動を始めました。何でも、一行でいいから改善の提案書を書いて出すと、500円をあげますという形で始めました。すると、500円に釣られて、社員さんからたくさんの提案が出てきました。それは社員さんの叫び、苦情でもあったのですが、あまりにもたくさんだったので翌月から300円にしました。経営は臨機応変です(笑)。

ずっと続けてきた今、月に200件前後の提案が出てきています。それで1年に1人当たり約20万円を知恵手当と称して支払っています。本日の講演のタイトルを「日本一の知恵工場」と題しているのは、そのためです。

社員さんは、四六時中、考えてくれています。仕事をしていて不都合に感じたこと

を改善提案書に書いて出す。そして、その提案が実行されると、『私はこの会社においてもいいんだ』という存在感が生まれます。存在感は自信につながり、自信は笑顔につながります。改善提案は、社員さんの笑顔を引き出し、会社を明るくしてくれるのです。

上に立つ者は、気配り、心配りが大切です。「いつもにこにこ、笑顔で挨拶」。こうすれば、明るい会社がつくれます。

心掛けることは、「不遇な時、愚痴を出すのか。それとも知恵を出すのか」です。愚痴を言うことで周りの同情を求めても、何の解決にもなりません。かえって愚痴を言うことで知恵が引っ込みます。愚痴を言う前に知恵を出すことが大事です。

お客様に無理難題を言われたとき、「できません」と答えると、お客様との縁が切れてしまいます。知恵も出てきません。お客様から「100円のものを50円にしろ」と言われたとき、私ならば「はい」と返事します。そして、何とかできないか考えてみます。そこから知恵が湧いてきます。

「怠ける者は不満を語り、努力する者は希望を語る」と言います。一生懸命だと知恵が出ます。中途半端だと愚痴が出ます。いいかげんだと言い訳が出ます。770年の伝統を誇る「博多山笠」に参加する人の心構えがあります。それは「言い訳をしない」「他人のせいにしない」「できない理由を言わない」です。こんな心構えがあるからこそ、770年も続いてきたわけです。会社経営にそっくりそのまま持ち込みたい心構えです。

私は現在68歳です。今こうして私が、人様の前で話ができるようになったのは、なぜなのか。今までの私の歩みを振り返ってみて、皆様の参考になればと思うことをお話しします。

高校を出て会社に入ったとき、ある先輩社員から「眠る時間を少なくしなさい」と言われました。その言葉が刺激になり、できるだけ朝早く起き、始業の1時間前に会社に行くようにしました。それを習慣づけました。すると、周りの人が感心し、応援してくれました。人より少し早く働くことを習慣づける。これが1つ目です。

2つ目は、お金を借りないということです。ローンをして買い物をしようとはしません。ローンをして生活水準を上げて、将来、破滅する恐れがあると思うからです。借金をしないことを心掛けると、こんなものがほしいと思っても、がまんすることにより「耐える力」がつきます。タニサケの創業時の合い言葉は、「儲かってから」です。「設備投資も儲かってから」を合い言葉にやってきたおかげで、わが社の自己資本率は97%を誇っています。

3つ目は、「よりよく」を心掛けることです。1日1日、進化するのがプロです。「よりよく」をめざすことでプロに近づけます。今日、100個の製品ができたとなると、明日は101個をめざす。それが「よりよく」ということです。

4つ目は、約束を守ることです。経営者にとって命の次に大切なのは「信用」です。信用をなくしたら、取り引きしてもらえなくなります。算数だと、 $100 - 1$ は99ですが、社会人にとっては $100 - 1$ はゼロです。信用をなくすというのは、そういうことです。約束事を1回1回守ることで、のれんが積み重なり、信用されるのです。

私は、ある商談の前の日に交通事故に遭い、頭に7針を縫う怪我をしました。これでは商談に行けないかなと思いましたが、包帯で頭をぐるぐる巻いて新幹線に乗り、若い社員さんにつきそってもらって、商談に臨みました。すると、商談の相手は「こんなときは来てくれなくても」と言いながら、私の話を真剣に聞いてくれました。約束を守ったから、心のコップを上向きにしてくれたのです。心のコップは、経営者にとっては大事なことです。社員さんは朝礼のとき、心のコップを下に向けているものです。これでは社長がいくらいい話をして、社員さんの心には入っていきません。経営者は、コップが上に向いているのか、下に向いているのかを察知しないとイケません。

5つ目は、他人のために汗をかく。ジコチュー(自己中心)ではなく、他者中心で生きることです。

会社の中にいてほしい人は、明るい性格の社員です。明るい性格の社員の周りには人がいっぱい集まってきます。かりに、その人が中傷を受けたとしても、周りの人が守ってくれます。

一流の人は明るいと言われています。同じ生きるなら、明るい性格でありたいものです。では、明るく生きるにはどうすればいいか。それは朝一番に大きな声で挨拶することです。上下の関係なく、「〇〇さん、おはようございます」と挨拶する。上に立つ者がまず挨拶をする。明るい会社をつくるには、上に立つ者が明るくなければなりません。

仕事には「やる仕事」と「やらされる仕事」があります。やらされる仕事をして、仕事に追いかけられている人は、勤続年数が何年になろうと、精神年齢は伸びません。そ



講演に聞き入る参加者
＝ポップアップホールで

れに対して、与えられた仕事に対して挑戦的な人は、精神年齢が成長します。「やらされる仕事」から「やる仕事」になったとき、苦しみは喜びに変わります。

仕事ができる人とは、知恵を出す人です。ほんのわずかな知恵でもいいから、知恵を出す。「これでいいのか」と常に思う。知恵を出すことで、「やる仕事」になります。「やる」という意志は人間を成長させます。逆に「やれない」は、楽をする魔法の言葉です。これでは、その人の成長はストップしてしまいます。

世の中にはつまらない仕事はありません。必要だから、あるのです。自分が「つまらない仕事」にしているのです。仕事が「つまらない」と言っているのではありません。自分が「つまらない」と言っているのです。

仕事に追われないで、仕事を追うことが大事です。そのためには「即行」を心掛けることです。上司から頼まれた仕事をすぐに片づける。上司が30分間はかかると思っていたものを20分間で片づける。すると、上司は「やるな。また頼もう」と思います。

「忙しい」という言葉は禁句です。「忙しい」と言っていると、情報が入ってきません。成長が止まってしまいます。なぜ忙しいのか。それは仕事に追われているからです。仕事を追いかけることで余裕が出てきます。

「仕事が楽しみなら人生は極楽だ。仕事が義務なら人生は地獄だ」。仕事が楽しみなら、8時間を4時間に感じますが、義務ならば8時間が16時間になります。同じ働くなら、仕事を楽しむことです。

「社長というのは、心配するために存在している。それが運命であり、宿命であり、さらには生き甲斐であると思えないようなら、やめた方がいい」。社長は損な役目をしないとはいけません。一番多く給料をもらっているのですから。「長たる者は部下の誰よりも損をすべき」、そのためには社員さんの避けて嫌がるような仕事をすべきなのです。そうすることで社員さんが自然と動いてくれます。ですから、私は一番早く入社し、トイレ掃除をしてきました。トイレ掃除をすることで心の重心が低くなり、安定します。

ゲーテは「人はただ自分の愛する人からだけ学ぶ」と言いました。これは大変ショッキングな格言です。社員さんから愛されないと、何も学んでもらえないのですから。

上に立つ者は、徳を高めないとはいけません。徳の高い人がリーダーになると、自然とうまくいきます。徳を高めると、社員さんは自然と動いてくれます。「徳は自己犠牲に比例する」。自分の時間を人様のために使って、人様を喜ばせる。それによって徳は高まります。

ユダヤの格言に、「0から1への距離は、1から100までの距離より遠い」というのがあります。まず一步を踏み出すことです。明日から、何か一步を踏み出す実践をしてください。

◎ 祝賀会



乾杯

▲ 大地 但 丹波市商工会長の乾杯の音頭で始まった祝賀会

アトラク
ション



▲ 日本紙器の社員有志でつくるバンドによる「JPCB」演奏



▲▶ 祝賀会でスライド上映に見入る参加者



スライド
上映

祝賀会

◎ 祝賀会



▲ 12代工業会会長 山本慎一郎氏
による万歳三唱

万歳
三唱



▲ 祝賀会に駆けつけた
辻 重五郎 丹波市長
によるあいさつ



丹波市工業会 会員名簿

会社名	住 所	TEL	FAX
1 ㈱クレハ樹脂加工事業所	柏原町北中150	0795-72-1126	0795-72-1380
2 ㈱氷上製作所	氷上町石生1767-7	0795-82-3431	0795-82-6948
3 ㈱共立合金製作所 柏原工場	柏原町北山字野中130-3	0795-72-3374	0795-72-3376
4 関西電力㈱ 柏原技術サービスセンター	柏原町柏原2844-1	079-563-2484	0795-72-3463
5 ㈱ミツワ 丹波支店	柏原町柏原2146-1	0795-72-1041	0795-72-2793
6 共栄樹脂㈱ 柏原工場	柏原町柏原1588	0795-72-2345	0795-72-0550
7 東洋電機㈱	氷上町成松151	0795-82-2220	0795-82-1053
8 ㈱大地農園	山南町小野尻267	0795-77-2311	0795-77-2318
9 日本紙器株式会社	春日町平松81	0795-74-1151	0795-74-2787
10 フランスベッド㈱ 兵庫工場	山南町樫7	0795-77-1051	0795-77-1823
11 アイクレオ㈱ 柏原工場	柏原町北中427	0795-72-3310	0795-72-3729
12 ㈱日進製作所 市島工場	市島町下竹田3118	0795-86-0711	0795-86-0735
13 明昌機工㈱	氷上町沼148	0795-82-7111	0795-82-7648
14 アイカ工業㈱化 品カンパニー 丹波工場	柏原町下小倉960	0795-72-2201	0795-72-2205
15 I T セミコン㈱	氷上町棧敷216	0795-82-6855	0795-82-4171
16 兵庫パルプ工業㈱	山南町谷川858	0795-77-1081	0795-77-2591
17 ㈱丹波新聞社	柏原町柏原201	0795-72-0530	0795-72-1956
18 パナソニック施設照明㈱	春日町黒井908	0795-74-1070	0795-74-3553
19 エムシー工業㈱	柏原町大新屋字坪田18	0795-72-2166	0795-72-3132
20 柏原加工紙㈱	柏原町柏原1561	0795-72-1137	0795-72-2726
21 ㈱大塚工場	市島町上田字前沢3-9	0795-85-0555	0795-85-2417
22 関西資材㈱	青垣町佐治字小島238-1	0795-87-0016	0795-87-1584
23 宏栄電線㈱ 柏原工場	柏原町大新屋46-2	0795-72-2777	0795-72-0216
24 山南合成化学㈱	山南町太田1016	0795-77-1245	0795-77-2547
25 ㈱三和製作所	市島町勅使435	0795-85-0591	0795-85-2547
26 ㈱青東工業	青垣町西芦田1353	0795-87-1722	0795-87-2123
27 ㈱アマデラスホールディングスグループ			
坂井化学工業㈱ 丹波工場	柏原町大新屋1-1	0795-72-2424	0795-72-3795
広野化学工業㈱ 丹波工場			
28 阪神動力機械㈱ 氷上工場	氷上町新郷字池ノ内1383	0795-82-3422	0795-82-3424
29 大和特殊硝子㈱ 市島工場	市島町下竹田3080-1	0795-86-1213	0795-86-1228
30 明興プラメック㈱ 氷上工場	氷上町新郷1228	0795-82-3655	0795-82-5570
31 ㈱セイコー電機製作所 市島工場	市島町上垣1062	0795-85-0201	0795-85-2556
32 鶴原製薬㈱ 氷上工場	氷上町横田字中ノ坪848-11	0795-82-3479	0795-82-4969
33 ㈱岩井工業所	氷上町石生1909-2	0795-82-6301	0795-82-6302
34 大日電子㈱氷上工場	氷上町横田832-10	0795-82-8115	0795-82-8117

編 集 後 記

1972年(昭和47年)8月に氷上郡工業会として発足しました丹波市工業会は、本年2012年に設立40周年を迎え、ここに「丹波市工業会40周年記念誌」を発行することができました。

思えば40年という歴史は長く、昭和時代の工業会活動を知る実行委員は一人もおらず、諸先輩方が発行されました20年誌、30年誌を参考にさせていただきました。

また40周年の歴史を掘り返す中で、昭和56年の10周年記念行事として作成された「躍進する氷上郡の工業」のフィルムが見つかりました。初めて観るものばかりで、先人の誇る遺産としてDVDに焼き変えて保管する運びとなりました。このDVDは40周年記念式典でのイベントとして放映し、出席者の皆様よりご好評をいただき、希望される方にはお渡しできるようにしております。

2011年は3月の東日本大震災、11月のタイ洪水、そして2012年も続く電力供給不安や円高不況による厳しい経済環境が続いています。また丹波市においては大型ショッピングセンターや大手家電量販店の進出などによる商業圏や雇用環境の変化の年に直面しています。

丹波市工業会は丹波市の産業界中核として今後も研鑽に努め、地元の経済発展に寄与したいと考えております。丹波市工業会及び会員各社が、今後ますます発展することを祈念して編集後記とさせていただきます。

最後になりましたが、本記念誌の作成にあたりご寄稿いただきました皆様方、及び当時の古い写真をご提供いただきました会員の皆様方、編集にご協力いただきました丹波新聞社様には心より感謝申し上げます。

2012年10月 実行委員一同

丹波市工業会40周年記念 実行委員会

委員長	足立 俊行				
委員	足立 克好	木口 淳平	黒田 高弘		
	古西 純也	山崎 賢治	赤井 正男		
	井本 哲	荻野 博文			
事務局	足立みどり				

丹波市工業会 設立40周年記念誌

発 刊 日 2012年10月1日
発 行 丹波市工業会
兵庫県丹波市柏原町柏原3573 丹波技能訓練センター内
TEL.0795-72-1340 FAX.0795-72-1390
E-mail h-kunren@pat.hi-ho.ne.jp
編集・企画・印刷 株式会社 丹波新聞社
